

ながさき教育通信

長崎の教育・学校現場の今を「ととってmotto!」と「NR」で定期的にお届けします。魅力ある学校や教育に関する取り組み、熱心に子どもたちの育成に励む教員たちを紹介します。

長崎県教育庁働きがい推進室
電話/095-894-3331 メール/s40190@pref.nagasaki.lg.jp

公式 YouTube



学校・教員の魅力を
中心に発信しています
ぜひチェックを
お願いします!

公式 Instagram



「学校のネタ帳」を
テーマに長崎の
学校の話題を
発信しています



子供たちの未来を育む コミュニティ・スクール

コミュニティ・スクール(CS)とは、地域住民や保護者が学校運営に参画する仕組み(学校運営協議会制度)を持つ学校のことです。長崎県ではCS導入拡大を推進し、持続可能な学校づくり・地域づくりを目指しています。

子供、先生、家庭、地域。みんなの笑顔がつながる学校の形



学校・教職員にとっての魅力

- ・地域の人々の理解と協力を得た学校運営や、地域人材を活用した教育活動が実現します。
- ・地域の協力により子供と向き合う時間が確保できます。



子供にとっての魅力

- ・子供たちの学びや体験活動が充実します。
- ・地域の担い手としての自覚が高まります。
- ・多様な方との触れ合いにより社会性が向上します。



保護者にとっての魅力

- ・学校や地域に対する理解が深まり、家庭教育との相乗効果が生まれます。
- ・保護者同士や地域の人々との人間関係が構築できます。



地域の人々にとっての魅力

- ・経験を生かすことで生きがいや自己有用感につながります。
- ・学校が社会的つながり、地域のよりどころとなります。

CSのポイントは「熟議」と「協働」

熟議

地域の子供が抱える課題などの実態を知り、「地域でどのような子供を育てたいのか」、「何を実現したいのか」という目標やビジョンを学校や保護者、地域で共有。実現のために熟慮・議論を重ねます。子供を交えた「拡大熟議」が行われることもあります。

協働

熟議を通して学校と地域の信頼関係を構築した上で、学校運営に地域の人々が参画し、共通の目標に向け協働して活動していきます。



県内学校の取組



南有馬地区「みんなま語ろう会」～子供と地域の座談会～での拡大熟議の様子



壱岐市立那賀小学校家庭科授業での協働の様子

学校指定型 ふるさと納税

～たくさんの寄附をお待ちしております～

長崎県教育委員会では、県立学校を指定して寄附を行うことができる「ながさきの学校応援寄附金」を開始しました。「母校や長崎県の頑張っている学校の取組を応援したい」という方が、ふるさと納税制度を活用し、学校へ寄附を行うことができる仕組みです。

※当応援寄附金には返礼品はありません。

寄附の流れ

寄附者は県立学校を選び寄附を行います。
県立学校は寄附を使い、生徒のための教育環境整備を行います。

寄附者



この学校を
応援したい!!

県立学校



備品整備等



寄附の方法

インターネットからお申し込みいただけます。
右記二次元コードか「ながさきの学校応援寄附金」を検索ください。



ミライ on 図書館「電子書籍サービス」・「図書館アプリ」

ミライ on 図書館では、電子書籍サービスや図書館アプリを提供しています。いつでも、どこでも、お手軽に♪本の世界を楽しめます。ぜひご活用ください。

電子書籍サービス

利用方法

ミライ on 図書館アプリから閲覧

ミライ on 図書館アプリに加えて「bReader Cloud」アプリの登録もおすすめです。
bReader Cloud を使うと、お気に入りの本を自分専用の本棚に登録したり、しおりやマーカーを付けたりすることができます。

ミライ on 図書館HPから閲覧

- ①ミライ on 図書館HPから「ログイン」
- ②「電子書籍」を選択
- ③紀伊國屋書店の電子書籍閲覧サービス「KinoDen」へ
※事前に図書館の利用登録が必要です。

提供コンテンツ

「KinoDen」の提供コンテンツから、本館で選定した書籍(コンテンツ一覧はHP からご覧いただけます。)

詳しい情報は
こちら



ミライ on 図書館アプリ

図書館の利用カードとしての利用や電子書籍の閲覧、本の予約など便利な機能が充実したアプリです。

詳しい情報は
こちら



Teacher's File

長崎の学校で生き生きと働く
先生たちにスポットを当てます

今回紹介するのは
長崎県立上五島高校の

末永淳也先生

民間から教職へ 人と向き合い喜び



末永先生ってどんな先生?

県内の工業高校で電子工学を学び、民間企業で十数年、電子機器製造に携わる。常に挑戦し成長し続ける姿勢を大切に、工業高校の実習助手を経て教諭に。現在は野球部顧問としても生徒を支えている。

先生のリフレッシュ方法

高校時代から野球に打ち込み、今も体を動かして汗を流すことがリフレッシュになっています。野球部顧問として、生徒と一緒に練習に参加する時間は、心身を整える大切なひとときです。

教員を目指したきっかけは

企業で人を育てる立場を経験する中で、相手の「わかる」「できる」という喜びが、いつしか自分自身の喜びになっていることに気づきました。これまで多くの出会いに支えられ成長してきたからこそ、今度は一人ひとりの人生に寄り添い、成長を支える存在でありたいと考え、教員を志しました。

この仕事に就いて良かったと思うとき

生徒たちの豊かな発想や感受性に触れる中で、自分自身も新たな気づきを得られることにやりがいを感じています。年齢や立場を超えて心と心が通い合う瞬間に、この仕事の喜びがあります。生徒が制作した映像が地方テレビ局のCMコンテストで受賞したことも、大きな励みになりました。

民間経験は役に立ってますか?

前職で培った材料や技術に関する知識、現場や技能検定を通じて得た経験は、授業や実習に活かされています。特に、高校卒業後すぐに社会へ出る生徒が多いため、「社会人として相応しい振る舞い」を常に意識した指導を行っています。民間を経験しているからこそ、説得力を持って伝えられると感じています。